

「物語の自力読みの観点」において 小学校6年間で子どもたちに獲得させたい力

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
物語の構成	時(いつ)・場(どこ)・人物(だれ)の3観点で場面を分ける。 →紙芝居をすると、何枚の絵が必要? ※「場面」=物語をつくる、小さなまとまり	物語の流れから、あることが大きくガラリと変わる場面(クライマックス場面)をとらえる。 →一番大切な場面は、どの場面? ※「クライマックス場面」=物語全体を通して、あること(≒中心人物)が最も大きく変わるところ。	・クライマックス場面を検討する。 ・前ばなし場面・展開場面・後ばなし場面の意味をおさえる。 ・実際に場面分けを経験する。 ※「前ばなし場面」=物語のおもとなる「時・場・人物(状況)」の大きな説明の場面 ※「後ばなし場面」=最も大きな変化のその後が描かれている。	・「前ばなし場面」「後ばなし場面」の有無を検討する。 →この物語には、前ばなしの場面はある? →展開場面はいくつの小さな場面できている? ・「後ばなし場面」において、「前ばなし場面」との対応を考える。	基本4場面構成を理解する。 ・前ばなし場面(設定) ・出来事の展開場面(展開) ・クライマックス場面(山場) ・後ばなし場面(結末)	叙述をもとに、クライマックス場面について考えを深める。
時の設定	「時」を表す表現を習得する。 [時間・季節・一日(朝・昼・夜)]	場面ごとの「時」の経過をとらえる。	物語作品全体の「時」を把握する。(「前ばなし場面」における設定) →いつの「時」の物語?	物語作品全体で、どのくらいの「時」にわたる出来事か理解する。 [時代・年・月]	物語作品全体から、「時」の言葉に着目し、「時」の経過を整理してとらえる。	
場の設定	「場」を表す表現を習得する。 [地方(海・山・村)]	場面ごとの「場」の変化をとらえる。	物語作品全体の「場」を把握する。(「前ばなし場面」における設定) [世界・国]	物語作品全体で、出来事の展開に応じた、人物の「場」の移動について理解する。	物語作品全体から、「場」の言葉に着目し、「場」の変化を整理してとらえる。	
人物	・「登場人物」という言葉を知る。 →出てくる人物は、だれ?(登場する順序) ・人物の気持ちの変化を考える。 ・人物の行動を具体的に想像する。 ※「人物」=人間。または、人間のように話したり、考えたりする生き物やもの。 ※「人物」の気持ちは人物が心の中で思ったことや、感じたこと、考えたこと。 ※「人物」の様子=人物のすることや話すこと、話し方や身振り、顔つきのことなど。	叙述をもとに、人物の気持ちの変化を考える。 ※「中心人物」=物語全体で、気持ちやその変化が一番詳しく描かれる人物。物語の中でも大事な役割をする。 ※「重要人物」=中心人物の変容に大きな影響を与える人物	叙述をもとに、中心人物の心情が、どこで、どのように、どうして大きく変わったのかとらえる。 ※「人物」の心情=人物が感じたり、思ったり、考えたりする心の状態。直接的な表現とともに人物の行動や会話などを通してそれとなく表現される。人物の心情は、ほかの人物やもの・こととの関わりの中で変わる。	・「中心人物」の変容をとらえる。(「山場」場面における最も大きな変容。) ・「中心人物」と「重要人物」等の関わりをとらえる。(人物相関図) ・場面の展開に応じた、「中心人物」と「重要人物」の関わりの変容をとらえる。		
あらすじ	場面ごとのキーワードを見つける。(時・場・人物を大切に)	場面ごとの大切な内容をとらえ、短くまとめる。 「だれ」が、「いつ」、「どこで」、「した・思った」	<あらすじ①> 場面ごとにキーワードを落とさずなるべく短い一文で表現する。 ※「あらすじ」=物語の内容を短くまとめた文章。	<あらすじ②> クライマックス場面における「あることの大きな変化」を中心にまとめる。	<あらすじ③> 基本4場面の構成を踏まえた短い文章。特に、クライマックス場面における「あることの大きな変化」を中心にまとめる。	
表現	様々な表現があることを知る。 ・繰り返し(大きな大きな) ・擬人法(おむすびは、〜とびこんだ。) ・慣用的な表現(目を丸くする) ・比喩(山のように) ・対比 ・オノマトペ(ザックザク) ・会話文	・倒置法 ・地の文	表現の効果について考える。(表現の工夫に気付く。) ・擬人法 ・慣用的な表現 ・比喩 ・対比(モチモチの木 昼⇄夜) ・オノマトペ ・情景描写(空色の花ばたけ)	・繰り返し ・倒置法(おまいだったのか。いづもくりをくれたのは。)	表現の効果について理解を深める。 ・繰り返し(反復) ・倒置法 ・擬人法 ・慣用的な表現 ・比喩 ・オノマトペ ・暗示(手をのびしたが、とどく寸前で目が覚めた。) ・情景描写	・心情描写(先のとがったすどいものが、みぞおちの辺りにずきとささった。) ・直喩(水銀のように) ・隠喩(日光の黄金) ・対比(文章表現に活かす。)
視点			それぞれの場面が、誰の視点から描かれているのか考える。 ※「語り手」=物語全体を読み進める人(一人称・三人称視点)	それぞれの場面が、誰の視点から描かれているのか理解する。	どの人物に寄り添い、誰の心の中を描きつつ物語を進めているか理解する。	物語の中で視点の変化について気付き、読み取る。
主題	・ある出来事から、中心人物にどのような変容があるのかを考える。 ・文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。	登場人物の心情や行動から、人物の生き方や物語に作者がこめた考えを想像する。	中心人物の変容に着目しながら自分の考え「感想」を書く。 ※「感想」文章を読んで、強く思ったり感じたりしたこと。	・中心人物の変容に着目しながら「作品の心」を書く。 ・題名の意味について考える。 ※「作品の心(主題)」=物語が自分に最も強く語りかけてきたこと。	中心人物の変容、題名の意味などから「作品の心」を感じ取り、自分の考えを表現する。	物語の構成やあらすじ・中心人物の変容、題名の意味などから「作品の心」を感じ取り、自分の考えを表現する。

(参考) 物語の「自力読み」の力を獲得させよ [著] 二瓶弘行